2015年度 法学部法律学科(現代社会コース) 教育課程表 (2013年度入学者に適用) (学年は標準年次を示す) 授業科目 単位 担任者 ■ 授業科目 単位 担任者 憲法 I 憲法Ⅱ 憲法Ⅲ ▶憲法Ⅳ 松 金子 一合 坂 民法序説 石川(正) 行政学 I 出口 行政学Ⅱ 出口 行政法 I 行政法Ⅱ 篠森 諸坂 磯 本 民法Ⅱ 民法Ⅲ 石川(信) 民法IV 民法I 浅野 浅 野柴 田 磯 本 石川(信) 地方自治論 I 地方自治論Ⅱ 家族法 篠森 大 越 藤 太 ★家族法Ⅱ 石川(正) ★刑法序説 加藤 刑法IV 山﨑 国際法II 加藤山﨑 刑法Ⅲ 大 越加 藤 国際法I 刑法I 刑法Ⅱ 西村東郷 環境法 I 三浦 比較法I 小森田 比較法Ⅱ 小森田 民事訴訟法I 小 室 情報法 池端 板垣(勝) 自治体法Ⅱ 消費者法I 石川(正) 自治体法 I 板垣(勝) 大日方 税法Ⅱ 裁判と法 小 室 税法I 大日方 知的財産法I 隈 元 知的財産法Ⅱ 隈 元 菊 池 |商法Ⅱ 菊 池清 水 金融法 I 菊 池 金融法Ⅱ 菊 池 商法I 清水 中小企業と法 I 葭 田 中小企業と法Ⅱ 経済法Ⅱ 葭 田 菊 池 葭 田 菊池 経済法I 細田 細田 会社法 I 会社法Ⅱ 社会保障法Ⅱ 自治体経営論Ⅰ 社会保障法 I 江 口 江 口 治体経営論 学ゼミナールⅡ 齋藤 学政治学ゼミナール I 2 | 勝 又 外国書講読Ⅲ 外国書講読 [] 外国書講読IV 外国書講読V 齋藤 英米法Ⅱ 柴 田 松 平 日本近現代法史I 吉 井 ■日本近現代法史Ⅱ 2 吉 井 ジア諸国の法I 松平『アジア諸国の法Ⅱ 審法特譜 石川(健) 法情報学 中網 行政法特講 休 講 田 口 民法VI 民洪 V 田口 小 泉 教育法Ⅱ 石川(信) 民法VⅢ 鳥田 不動産鑑定理論 教育法 I 小 泉 尼注VII 遠 藤 下動産法実務 島田 登記実務I 登記実務Ⅱ 上杉 環境法Ⅱ 三浦 上杉 登記実習 小森谷 石川(正) 休 講 ★消費者法Ⅱ 休 講 「消費者法Ⅱ 保険法 清水 ■企業法特講 倒産処理法 民法特講 休 講 小 室 民事訴訟法II 休 講 刑法特講B 丸 山 少年法 公 文 刑事訴訟法II 小室休講 民事執行 保全法 刑法特講A 刑事政策 公文公文 刑事訴訟法I 法律学特講 I 法医学 休講阿部 2 石川(孝)·小川 法律学特講 Ⅱ ×9 労働法 坂 本 藤本 国際法IV 山田(恒) 国際私法II 国際法Ⅲ 国際私法 I 山田(恒) 国際取引法I 休 講 国際取引法Ⅱ 休 講 行政実務特論 石井(梨) 岡村(駿) 政治学特講Ⅲ 日本政治史Ⅱ 大 川 政治学原論Ⅱ 政治学特講IV 橘 川 政治学原論 I 大 川酒 井 佐橋田 日本政治史 I 幸田 上北·鶴藤 法律学特議IV 法律学特議Ⅲ ×1 法律学特講V 加藤·公文 法律学特講VI 橋 川 日本政治思想史I 加藤・公文 西洋政治史 I 小 山 西洋政治史Ⅱ 小 山 アジア政治外交史 I 2 小 池 ジア政治外交史Ⅱ 小 池 日本政治思想史 橘川 比較政治学 I 小 山 『比較政治学Ⅱ - 小山 荻 村川 瀬 西洋政治思想史] 西洋政治思想史Ⅱ 政治学特講 I 政治学特講 Ⅱ 山崎 国際政治学 I 佐 橋 国際政治学Ⅱ 森 森 学政治学英語特講V スーゼン 法学政治学英語特課VI 2 スーゼン 法学政治学英語特講 I ■法学政治学英語特講Ⅲ マーフィー レスリー レスリー イソー 活学政治学英語特講IV · 学政治学革斯特選 [ 情報処理I 情報処理Ⅱ **※**2 社会経済学I 2 玉手, 松橋 社会経済学Ⅱ 経済政策 戸田(壯) 経済政策 清水(俊) 四方田 税務会計論 ミクロ経済学 ₩3 奥山(茂) 酒井(良) 会計制度論 経営学I ×5 経営学Ⅱ **%**6 マクロ経済学 ₩4 金融論 経済地理I 三富,後藤(児) 経済地理Ⅱ 2 三富,後藤(晃) 西洋経済史 I 佐藤(睦) 西洋経済史Ⅱ 佐藤(睦) 日本史概論 I 坂井,前田(禎) 日本史概論Ⅱ 坂井,前田(禎) マーケティング ] 上 沼 マーケティングⅡ 上 沼 外国史概論 I 中林, 山本 外国史概論Ⅱ 中林, 山本 財務会計論 岡村(勝) 連結会計論 岡村(勝) 社会思想史 I 的 場 社会思想史Ⅱ 的場 新井(智),小泉.人文地理学概論Ⅱ 人文地理学概論 I 新井(智), 小泉 日本経済史 I 神谷,谷沢:日本経済史Ⅱ 神谷,谷沢 平井(史) 自然地理学概論Ⅱ 平井(史) 世界経済論 I 自然地理学概論I ×.7 世界経済論Ⅱ **\***.7 平井(誠) 地理学(含地誌) 2 前川 地理学(含地誌) 社会学概論 I 植 木 社会学概論Ⅱ 植 木 財政学 I 財政学Ⅱ **※**8 伊藤(美) 哲学概論Ⅱ

※1:江口、遠藤、大越、坂本、瀬戸 ※2:岡田、小林(秀)、田代 ※3:北村(隆)、坂上、外木、吉岡、大滝 ※4:清水(俊)、玉井、外木、野口、大澤 ※5:小林(康)、三島、加藤(寛) ※6:小林(康)、三島、西村(陽) ※7:内藤、鳴瀬、藤村 ※8:池上、五嶋、総橋、森田(圭)

∫伊藤(美)

高山

哲学概論 I

#### 〔備 考]

- 教育課程表中,◆印は隔年開講科目,★は開講期変更追加科目,▲は2009年度以前の入学者まで履修する 1 ことができる科目を示す。 「外国書講読  $I \sim VI$ 」は 2007 年度から各年次の設定がなくなり,1 年次から履修することができる。

- 1・2年次は、上位年次の授業科目(関連科目を除く)を履修することはできない。
- 同一授業科目は、重複して履修することはできない。 共通科目の「日本国憲法」は、教職課程登録者のみ履修することができる
- 不無付日ツ「日本国悪伝」は、教職味性宝球有のみ履じりることかできる。 各セメスターにおいて履修登録できる単位数は、22 単位以内とする。ただし、卒業年次生に限り、特に法学部長の許可を得た者は上記の制限を超えて履修登録することができる(次の5の場合も同じ)。 長期履修学生間度適用者が各セメスターにおいて履修登録できる単位数は、16 単位以内とする。 卒業年次生に限り、特別
- 通年科目を履修する場合は、その科目の単位数を二分割し、前学期・後学期それぞれの学期の単位数とし て換算する
- 各種課程に関する科目及び教職課程の「教職に関する科目」の単位数は、上記4・5の制限の枠外とする。

## 〔コース制〕

- 2年次当初に「法律職コース」、「企業法務コース」、「現代社会コース」のうち、いずれかのコースを選択 しなければならない
- コースの変更を希望する者は、3年次当初または4年次当初に「コース変更届」を提出すること。年度途 中での変更は認めない。

### [学外単位認定制度]

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は,本学における授業科目の履修とみなし,卒業要件単位に 算入することができる。なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限 単位数に含める。

- 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所 定の手続きにより認定された単位。
- 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で,本学の授業科目として認定された単位。

# 〔法律学科卒業要件〕

授業科目	共通科目								専攻科目						_
入学年度	F Y S	外国語科目	キャリア形成科目	人文の分	系 社会の分野	自然の分	健康科学	計	A 群	B 群	C群	関連科目	計	自由選択科目	合 計
2013年度 入学	2	4	4 4 4 4 計 22				28	28	28	30 86		86	18	132	

- 1 4年以上(長期履修学生制度適用者については6年以上)在学し、学則所定の「卒業要件単位数」を修得 しなければならない。
- 共通科目から次の内訳で合計 28 単位以上修得すること。

  - (1) FYS 2単位(必修)。 (2) 外国語科目から同一語学を4単位以上。
  - (2) 外国語行目がら同一語子を4年位以上。 (3) 教養系科目から22 単位以上。ただし、人文・社会・自然の各分野からそれぞれ4単位以上修得すること。また、キャリア形成科目の単位は、卒業要件単位としては2単位までしか算入できない。 専攻科目から次の内訳で計86単位以上修得すること。
- - (1) A群から 28 単位以上修得するこ (2) B群から 28 単位以上修得するこ

  - (3) C群及び関連科目から 30 単位以上修得すること

なお、A群の「卒業要件単位数」を超える単位はB群に換算できる。また、換算した単位を含めてB群の「卒業要件単位数」を超える単位はC群に換算できる。 自由選択科目の単位として、18単位以上修得すること。自由選択科目の単位として算入できるものは、

- 次のとおりとする

  - (1) 共通科目・専攻科目の各「卒業要件単位数」を超える単位。 (2) 自治行政学科・他学部開講の専攻科目の単位。ただし、他学部他学科が受講を認めない科目は履修することができない。
  - (3)教職課程登録者が修得した教職課程の「教職に関する科目」の単位。ただし、6単位を上限とする。

### - 教育課程における標準年次の区切線について -

- ① 標準年次が実線 (----) で区切られている場合,原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- ② 標準年次が破線 (-----) で区切られている場合, 原則として上位年次の授業科目は履修できますが, 「履修要件】等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。